

林間学校

2年3組 23番 横山 美紅

初めての冒険気分

私は9月の4日、5日、6日の2泊三日で林間学校に行ってきました。福島県の北側に広がる自然の雄大さは写真で見るとより迫力と感動がありました。そしてコースを歩くと身近に植物が見えて時にはトカゲや蛇も近くにいたり、歩いていて、熊の足跡がどうかという話題になったり、大変だったけど私は自然を楽しみつつ色々なことを学んできました。詳しいことを言っていきますと、まず一日目、半日コースで私は「裏磐梯野鳥の森」という名前のコースを歩きました。

季節が秋でしたので森の木々の葉の中で紅葉の早いものはもう深紅に染まっていたのですが、この森をつくる大木なんかはまだ真夏の青々とした葉がサラサラ言っていました。このコースは風景が場所によって違い、最初のまだ歩き始めて数分は散歩コースのような、わき側に植物が生えていて、歩きやすそうな外見をもつ、まあ実際歩きやすい気軽なコースですが、だんだん奥になるにつれ、山の木の葉が上で知らぬ間に重なっていて、薄暗くなってきたなど上をみると太陽の光が木々の間から差し込んでいて青い空はちらちら見えるだけの光景になっていました。地面も見てみると薄暗いのもそうですが、少しさつきとちがって歩きにくいような感じがあり、体力もけずれていました。私にとってその葉に隠された太陽の光がキラキラと夜の星のように輝いていることがどれだけ「すごい」と思えたか・・・昼なのになぜか夜っぽい景色、不思議のような、おかしいような・・・重なって黒っぽく見えた葉の間から水色の天の川と小さいけど光り輝く星、という印象と共にその光景は私の記憶の中におさめられています。それでその葉のおかげで雨が降っても60%ほどは大丈夫、とのことでした。実際雨に遭ってみて効果が分かりました。ただしコースをもどるときには雨具が必要です。散歩コースは薄暗くなくて、空もよく見えるかわりに雨が直接あたります。ところで私が今回、裏磐梯で何を思ったかといいますのは、裏磐梯を自分の目でみて学ぶこと、山に咲く花についての調査、ついでにバンダイクワガタが見られれば良いかと、こういうことです。ちなみに一日目の野鳥の森ではこの森について説明があり、この森に雨が降ると、その雨は腐葉土などが積もる土の中にしみ込んでいってろかさされ、地下の巨大な貯水庫にためられ、そこの水は森のどこかから流れ出て川や湖の源流になるそうです。ちなみに今現在もその貯水庫には膨大な量の水があり、本来なら飲めるそうです。

その話を私は、「そういえばさつき歩いている時、ちらちら水の流れるような音がする場所があったな」と、思いながら聞いていました。その場所は左側に土の壁、右下側にはち

よつとした谷間があって、真横(右)には急斜面が見えます。見たところ75°位の斜面、その急斜面には木が生えていて、なぜか根が丸見え、へばりついているような生え方で、しかもそのまま幹がまっすぐ斜めに生えているわけでもなく、根から30センチいかないようなところで幹はまがり、真上の太陽の方角をむいてそのまま上へ伸びて・・・人が曲げようとしても曲げられないような太さの幹がまがっている、という第一印象を持ったあの場所、その木の生えている斜面の底、ちらちら鳴って、キラキラ光っていたあの場所、小さな岩場にあった穴から水が出ていました。話をきいてから思いだすと、「あの少量の水が後にあわさって海まで流れるのか、すごいな」と思いました。そもそもなんで頑丈な岩に穴があいているのかと考えると飲める水でもあなどれませんが・・・。

山登りで発見、の日

2日目、この日は浄土平といわれる場所まで行きます。少し裏磐梯とはさよならして、少し遠いところに行く、ようです。・・・しばらくして浄土平についてバスを降りると目の前には浄土平ビジターセンターと大きく書かれた建物、そして右側には常に有毒ガスを噴いている一切経山が見えます。この2泊3日、旅行ではないので楽なところはないなんて承知してきていますが、こんなに見た目から厳しそうなどころがあるなんてことは思っておらず、最初からもうテンションはどん底・・・だったのです。しかしいざ出発して、木道の道を歩き、見えてきたのはちょうどさっきまで例の建物ですっぽりと隠されていた、普通の緑色の山・・・一切経山は有毒ガスが常に噴出しているために登山自体が禁止されているそうです。私は、登山が解禁されてもあんな岩肌丸見えの山に登る人はまずいないだろう、とおもいましたが…(たとえ下側にイネ科の植物が若干生えているのがみえたとしても)。それはともかく、その私達の登った山なのですが、1日目に行ったような「森」、ではなく完璧な「山」だったので、体力の消耗が昨日よりはやく、道も険しくて長めでした。この山には植物が多く生息していて、とても調査がやりやすい(体力の都合にもよりますが)場所で、やってみたのですが・・・図鑑みたいにはっきり上とか下とかわからないのですよね・・・(正直なところ)、そう困っていたのですが、実はこのネイチャーガイドの二階堂先生が山を歩き始める前に、この地域周辺に生息する代表的な植物がのっているパンフレットを下さっていたので・・・まあ何とか調査完了、です。調査の結果、山の植物はより多く日光を吸収したいから上の方角を向くような(向いているような)植物が多い、という結果になりました。ちなみにそのパンフレット・・・表裏合計59種類の植物が載っています。もちろん山を歩いているときに会った植物もあるのですよ。例えば、「シラタマノキ」に生えている通称シラタマ、これ自体は載ってないのですが、見た目、形、それから名前の似たような植物がのっていたのです。シラタマは、白くて直径1cmちかくの小さくてかわいらしい玉、しかし、この実を押しつぶして香りを確かめてみると、保健室にあるような薬っぽい、しかもほんわかではなく強烈な臭いがします。その実に似ている植物の実というのが「アカモノ」です。同じく直径1cmほど、香りは分かりません。

しかし、白ではなく、赤い色をしているのです。パンフレットには花がのっているようですが……。それで、この小さい実シリーズ、これで終わりではなく、もう二つ、黒いバージョンがありまして実では区別がつかないのです。「クロマメノキ」の「クロマメ」と「ガンコウラン」です。やはりこれも小さくて香りもわからないのですが、クロマメとガンコウランはどうも私では見分けられないのです。クロマメは確かに黒豆、ガンコウランはパンフレットでみると、少し紫……。でもやっぱり黒、みたいな色で……。私では無理です。

でもあの4つ子シリーズ、私はとても好きです。だって、かわいいじゃないですか。他の人は「実。」でおわってしまうのでしょうか……。

霧に隠された山の秘境

それとこの山を登っていて、もうひとつ気になったことで、「一生心に残しておきたい。」と思ったことが、この山歩いているときに会った景色なのです。テレビなんかで山を登ってみるプロジェクト的なもので、高い山に登って登山者が、雲海をみた、というものは結構ありますが雲の中にはいって遠くが見えなくなった、タイミングのものを見るのはなかなかないですよ。私達はみたのですよ。さっきまで雲は上にあっただのに、疲れてただただ歩いているうちに視界にだんだん白いようなのが増えてきて、ふと前をみると、ずっとむこうの山々が上のほうに白いグラデーションをして、真上は真っ白、霧が舞って、木道の周りの草も若葉色と白に染まって。ええ、霧のような雲のような、それは寒かったですが、感動でした。周りが白、ということつまり今私たちは霧に守られ、隠されている、ということですから……。はい。登った人にしか見えない光景なので、あれは今でも心の中に印象深く、残っています。

そしてこの日の夜、「キャンドルファイヤー」が行われました。キャンドルファイヤーは友情を確かめ合うものです。神聖で静寂なオープニングに始まって、それからもう歌って踊って、特にクラスごとの出し物なんて3組は滑って終わって、すぐに歌の伴奏が始まって急いで自分の位置にもどって、体力消費したまま歌の歌詞どおりに歌って……。疲れましたよ。楽しむというより、そっちのほうが気持ちとして正しいと思います。なんたって、体育の授業たった一時間でフォークダンスが覚えられる訳ないですから、頭まで使っちゃって。大変でした。

三度目の正直

その次の日、3日目のこの日はウォークラリーがあります。これは協力を試される行事です。私の班は4人、男女各2人ずつの構成になっています。しかし裏磐梯とあって、コースは広大、このコースでは問題を解き、チェックポイントを通過して、3時間でゴールしなければなりません。頼りになるのはコマ図と、班員の知恵だけです。しかし……。この班、うまくいかず……。ゴール出来ずにバスで回収されて戻ってきました。班内の気持ち合わなかったのも、前半はまあよかったのですが、後半、「時間、間にあわねー」と焦

ってランラリーになってしまってますね……。体育になってしまって、景色は前半から楽しめず、しかも全員、体力消費して、私じゃない方の女子が軽傷して、そしてバスに揺られて帰ってきた、ということです。ちょっとトラブルがあって暗く終わってしまったウォークラリーですが、この林間学校、あくまで目的は果たしましたので、そのことはあまりきにしません。

最後にまとめ



この林間学校2泊3日、疲れましたが、その1, 5倍以上の価値の情報を学ぶことができました。ハプニングもありましたが、すごいものもいっぱい見ることが出来てとても良い林間学校だったと思っています。

知っていますか？ トリカブトっていうのですが……。

毒があるのです。これ、そこらへんにいっぱいあったんですよ。